WEEKLY 一宮

題字　PG　安野譲次

Rotary

奉仕しよう　みんなの人生を豊かにするために

The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日　●例会場 一宮商工会議所　●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話〈0586〉24-1931　〒491-0858

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

URL:http://rc138.org　E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

重文 「陵王」面　真清田神社蔵

2022年6月2日
第3507回例会

会　　長 梯　國彦　会長エレクト 関戸　徹
幹　　事 鈴木洋志　副幹事 吉田真人
副 会 長 猪子誠兒　会報委員長 内藤幹夫

プログラム
卓　話
碇　穂氏
（東海NEXUS監督）
テーマ「自分らしく、あなたらしく
LGBTQと企業 “普通”ってなぁに？」

国　　歌 「君が代」
ロータリーソング 「奉仕の理想」

6月度のプログラム
2日　卓話　碇　穂氏（東海NEXUS監督）
9日　例会変更　夜間例会　日本料理江美
16日　卓話　山本理江氏（管理栄養士）
23日　卓話　北折　一氏（制作プロデューサー）
30日　クラブアッセンブリー　理事役員退任挨拶

会員誕生日おめでとう
太田義孝君（6月　2日）　鈴木清美君（6月　2日）
桑原英寿君（6月　4日）　芦田辰行君（6月　5日）
浅 野　一君（6月　6日）　黒崎恵美君（6月10日）
中西啓太君（6月11日）　二ノ宮道彦君（6月12日）
野田一郎君（6月13日）　長尾昌浩君（6月17日）
柴垣健一君（6月25日）　萩 原　仁君（6月30日）

会員夫人誕生日おめでとう
川松久芳君夫人　麻里子様（6月　2日）
加 藤　亘君夫人　由　美様（6月　3日）
石川信吾君夫人　幸　江様（6月　4日）
芦田辰行君夫人　絵津子様（6月10日）
松田暁昌君夫人　美千代様（6月22日）

結婚記念日おめでとう
佐々憲一君（6月　1日）　太田義孝君（6月　7日）
江崎正和君（6月10日）　野田一郎君（6月10日）
木村憲彦君（6月14日）　冨田隆裕君（6月15日）
近藤尚文君（6月15日）　村 手　誠君（6月20日）
佐々木久直君（6月30日）

次回の予定

6/9　例会変更　夜間例会　江美
6/16　卓話　山本理江氏

第3506回例会の記録
2022年5月26日（木）

会長挨拶　　梯　國彦

皆様、こんにちは。

本日のお客様は、一宮市教育委員長　高橋信哉さんです。

Z世代の人財教育について卓話を頂きます。

先日の日本経済新聞で、「侵略されたらどうすべきか」という見出しの記事がありました。その中で岸田首相は、日米首脳会談後の内外記者会見で、台湾侵攻の可能性が取りざたされる中国を念頭に、ウクライナは明日の東アジアかもしれないと発言されました。

戦争は何が何でも避けるべきで、敵が攻めてきたら早々に降伏すべきという意見を、時折聞きます。しかしロシア占領地域のウクライナ人は、自由も権利も財産も奪われ、望まぬ労働を強要され、文句を言えば即、処罰される現状を目のあたりにする時、複雑な気持ちになります。

今日のロータリーの学びは、東海大学教授　山下泰裕さんの「人の痛みが分かる本当のチャンピオンになれ」です。2000 年のシドニーオリンピックを振り返り、篠原信一と野村忠宏の利他の心に、心が打たれた事が書いてあります。より良い仕事をしていくためには、自分だけのことを考えて判断するのではなく、まわりの人のことを考え、思いやりに満ちた「利他の心」に立って判断すべきだと思います。

委員会報告
ニコボックス　　冨田隆裕

☆　佐々憲一君
本日は一宮市教育長、髙橋信哉様にご多忙の中、お越しいただき、卓話を頂く喜びで。

☆　梯　國彦君　鈴木洋志君
本日は一宮市教育長髙橋信哉様に「Z世代の人財育成」について卓話を頂く喜びで。
一宮の子供たちは、地域の宝！！
大変楽しみにしております

出席報告

現在の会員数	109名
本日の出席数	63名
前々回の出席率	100%

＊＊＊＊＊＊ プログラム ＊＊＊＊＊＊

卓 話

髙橋信哉氏

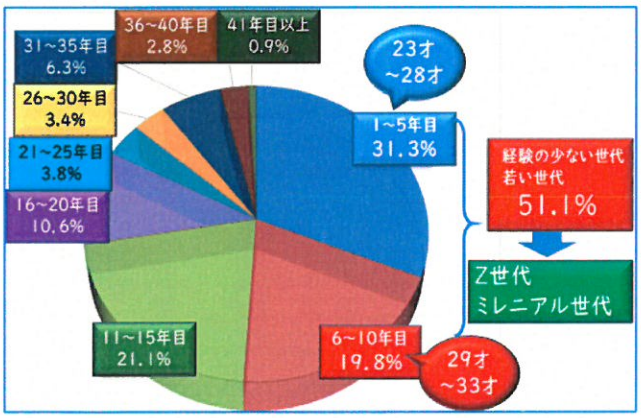
（一宮市教育長）

テーマ「Z世代の人財育成」

「その気にさせる『き・く』を大事に」

～ 人材育成を人財育成に ～

今日は「その気にさせる 『き・く』を大事に」をテーマに、『人財』育成について、日頃、管理職（校長・教頭）に伝えていることをお話しいたします。



上のグラフは、昨年度の本市小中学校の教職員の経験年数をまとめたグラフで、23 才から 33 才の教職員が 51.1%を占めています。一般にこの世代の前半を「Z 世代」と呼び、後半は「ミレニアル世代」と呼ばれています。この世代を代表し、今、世界・日本で活躍しているのが、野球界では二刀流の大谷翔平選手や完全試合を達成した佐々木朗希投手、ゴルフでは渋野日向子選手であり、将棋では藤井聡太5冠で、その他にも多くの「Z・ミレニアル世代」が輝いています。

本市の半数以上を占める「Z・ミレニアル世代」の教職員が、大谷選手らのように子どもたちのために活躍することは、一宮の教育、そして未来にとってとても重要で、この世代の教職員をその気にさせ、教師力を高め、本気にさせることは、教育委員会と管理職にとって最も大切な責務になっています。

今回、この「Z 世代」を代表する佐々木投手の育成法から、「その気にさせる『人財』育成」をテーマに思うところを述べていきます。

佐々木投手が、4 月 10 日のオリックス戦で完全試合を達成したことは記憶に新しいことです。

佐々木投手の育成法については、多くの逸話が残っています。もっとも記憶に残るのが、高校 3 年生の夏の甲子園、岩手大会の決勝のことです。甲子園出場を目前に佐々木投手の疲労を考え、連投となる決勝戦での登板を監督が回避します。佐々木投手の大船渡高校は花巻東高校に敗れ、甲子園を逃します。決勝戦まで勝ち上がった場面で、最も甲子園に近づく佐々木投手の登板を見送った監督の決断に、賛否両論、大きな反響が起きました。

プロ入り後も佐々木投手の選手育成は異例で、1 年目は公式戦での登板なし、2 年目に 1 軍デビューしますが、登板間隔を空けて徐々にプロの試合に慣れていくような起用法でした。そして、今年もチームの勝利以上に投手としての育成を優先した起用が続いています。ここで注目したいのは、佐々木投手にかかわる多くの指導者が、単に逸材の体を壊さないように育成しているだけではないということです。指導者の方針と指導法が、佐々木投手自身が描く将来像と一致し、日々のトレーニングが自分事となり、その積み上げの成果が成績につながっているということです。

佐々木投手らの「Z ・ミレニアル世代」の若者たちは、強くしかられずに育ち、争うのに慣れていない世代だと言われ、「なぜやるのか」など目的まで丁寧に教えないと行動を起こせない世代だと言われています。また、SNS に慣れた分、コミュニケーションに壁を作り、本音が話せない世代だとも言われ、挫折を経験していない分、失敗すると引きずってしまう、エビデンス・フェアー・共創を大事にする世代だとも言われています。

「巨人の星」で育った私たち「スポ根世代」は、「頑張ればできる」でやり切ってきた世代です。そんな私たちが育った時と同じ感覚で「Z・ミレニアル世代」に接していけば、間違えなく「ソッポ」を向かれます。この若者には、「褒める・成功体験・やりがい・一緒に」が大事で、そのためのコミュニケーション、とりわけ「き・く」が大事になります。「き・く」の漢字には「聞く・訊く・聴く・効く・利く」があります。まずは若者の話を聞いてやる。時にこちらから尋ねてやる（訊く）。困ったことがあれば寄り添い聴いてやる。そうすれば、若者はその気になって体が動き、成果が出ます（効く）。その結果、利益が生まれ豊かになる、教員からすれば子どもが笑顔になる（利く）ということです。

子どもたちは、未来の担い手です。その子どもたちを導く、教職員がその気になって頑張り切れるよう「き・く」を大事に「人財」育成に努めてまいりたいと思います。